

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	浪速
学校名	大阪市立難波中学校
学校長名	松井 宏之

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・難波中学校では、第3学年 55名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・今年度も国語については「国語の勉強は好きですか」の問い合わせに「好き」と答えている生徒の割合がわずかながらも全国を上まわっている。「国語の勉強は大切だと思いますか」の問い合わせにも、全国を上まわる割合で、その重要性も理解している。今年度は読解力については向上は難しかったが、「書くこと」に関しては多少の改善がみられた。更なる継続した取り組みが必要である。国語Aではわずかながら正答率のポイントの向上が見られたものの、国語Bでは大きく下がってしまっている。
- ・数学については、教科に対する苦手意識はあるものの、「好き」と答える生徒は全国平均より1.2ポイントも高い。ところが、正答率は大幅に下がってしまった。基礎の関数と、数式の発展問題に課題をかかえているようである。個別の指導の充実が求められている。さらなる習熟度別少人数授業の取り組みの充実などによって、改善をはかっていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語の授業や読書に意欲的に取り組む姿勢は継続してみられる。一年生からの「学習の手引きの活用」「朝読書」等の取り組みが、授業の受け方、ノートの取り方、予習・復習の仕方などに安定した成果を上げていると考えられる。「書くこと」以外の領域では、一定の学力の到達度がみられ、少人数授業等のきめ細かな指導の成果が表れている。国語Bの平均無解答率から、粘り強く取り組む姿勢にも今年度は特に課題があると考えられる。本校の最大の課題のひとつは、まとめた文章を書くなどの記述力の育成である。

〔数学〕習熟度別少人数授業の成果として、授業に対する姿勢が改善されたり、公式等の根拠を理解しようとする生徒が増加している。一方、授業ではある程度理解できても、宿題や復習で反復して問題に取り組もうとする習慣が身についていない生徒が多く、基礎学力の定着を強化する取り組みを実施する必要がある。更に応用的なものにも触れる機会を持ち、探究心を育み活用していく意識を高める。

質問紙調査より

・国語・数学の授業では、1年生のときから、習熟度別少人数授業を充実させ、生徒の発言の機会を増やし、わからないところを質問できる学習環境も整えている。授業中においていねいに生徒の学びを確かめながら、個に応じた教育に取り組んでいる。学習の状況について、本校の大きな課題は家庭学習の習慣が定着していないということである。宿題や、復習にかける時間が少ないがそのこと自体があまり意識されていない状況がみられる。家庭学習の重要性への意識を高め、しっかりと時間を確保できる環境と、意識の改善に力を入れていく必要がある。「原稿用紙2~3枚の文章を書くことは難しい」の結果からも、文章を書く力、基礎基本の力をもとに表現する力、記述力に課題があるといえる。これまで、言語力や論理的思考力の育成につながる取り組をすすめているが、引き続き、授業の工夫、改善により授業力の向上をはかり、1時間1時間の授業を大切にしながら、積み重ねていく粘り強さを育みたい。

今後の取組

- ・国語の「書く」力を育成するために、習熟度別少人数授業において、徹底した個に応じた指導を行い、基礎的な作文力と発展した思考力・表現力の養成を図る。
- ・数学の家庭学習の習慣が確立できるように、家庭用の課題づくりと、ステップ・アップテスト（定期テストに向けた小単元の小さなテスト）を利用しながら、定期テストや実力テストの復習が家庭でできる詳細な解説づくりを行う。授業中の小テストの実施回数を増やし、反復練習することにより基礎学力の定着を図る。テスト実施前後の学習会を充実させる。
- ・ICTを活用した授業にも積極的に取組み、授業の効率化や改善をはかる。

【 全体の概要 】

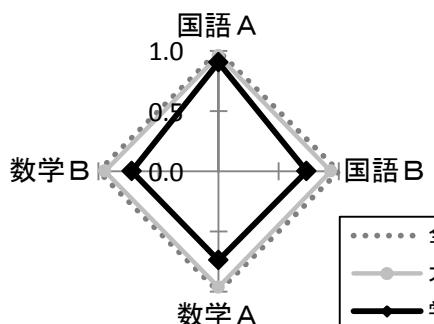
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	68.4	48.7	46.0	31.8
大阪市	72.5	62.1	60.0	41.7
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

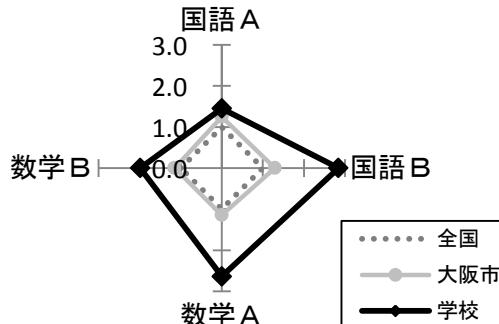
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.9	12.5	16.6	29.2
大阪市	2.5	5.7	7.2	16.9
全国	2.0	4.4	6.3	14.7

平均正答率(対全国比)



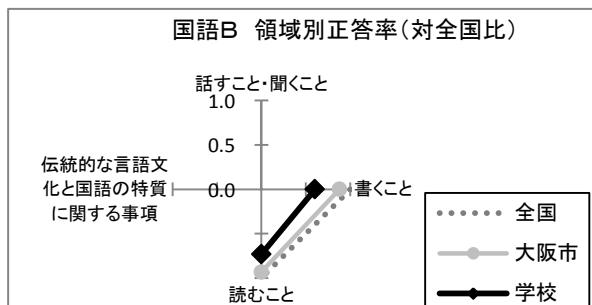
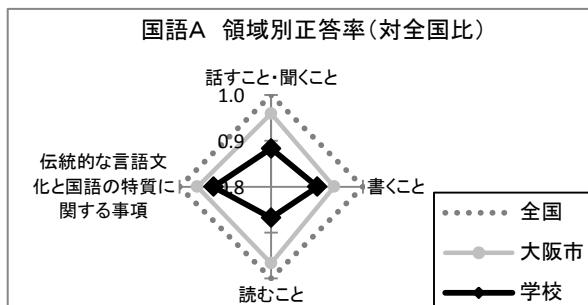
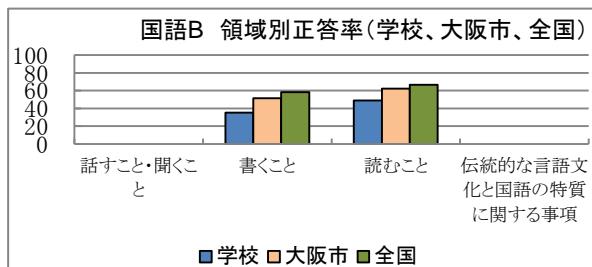
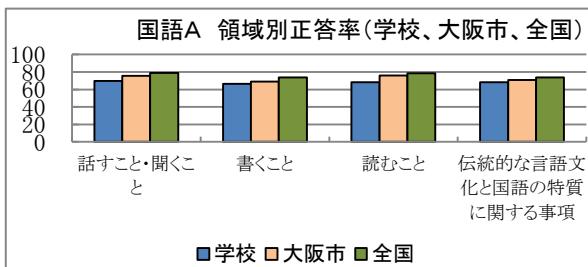
平均無解答率(対全国比)



【 国語 】

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	69.7	75.7	78.9
	書くこと	4	66.4	69.1	73.7
	読むこと	6	68.2	76.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	68.4	71.0	73.9

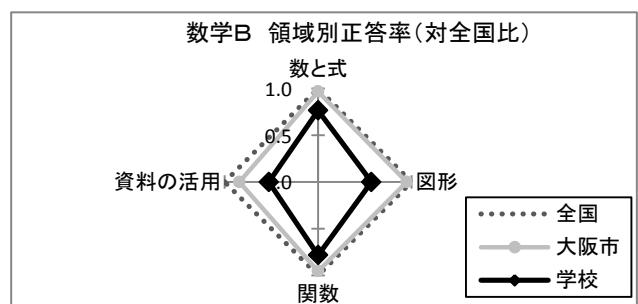
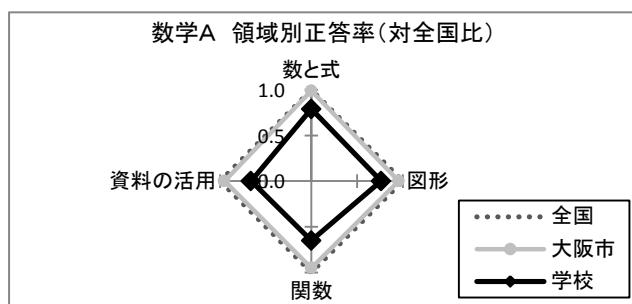
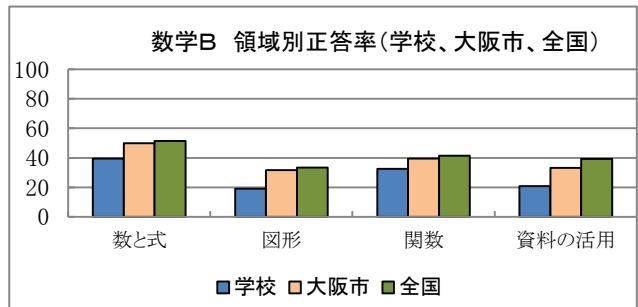
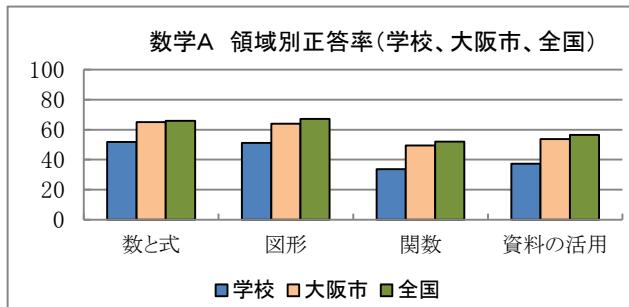
B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	—	—	—	
	書くこと	3	35.2	51.3	58.3
	読むこと	9	48.7	62.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	



【 数 学 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	12	51.9	65.1
	図形	12	51.2	64.1
	関数	8	33.8	49.4
	資料の活用	4	37.3	53.7

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	6	39.4	49.8
	図形	2	19.0	31.6
	関数	5	32.4	39.5
	資料の活用	2	20.7	33.1



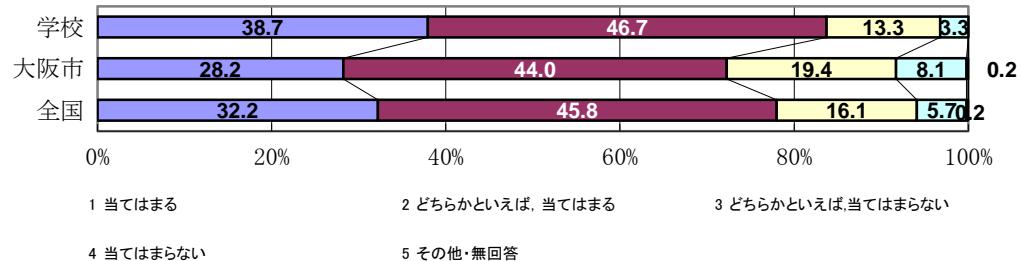
生徒質問紙より

■ 1 □ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 □ 7 □ 8 □ 9

質問番号
質問事項

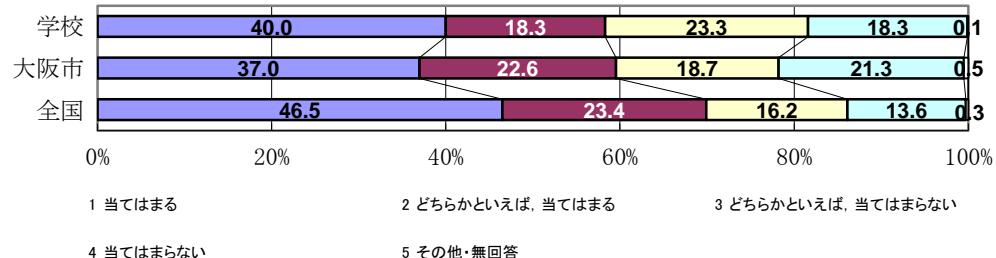
32

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



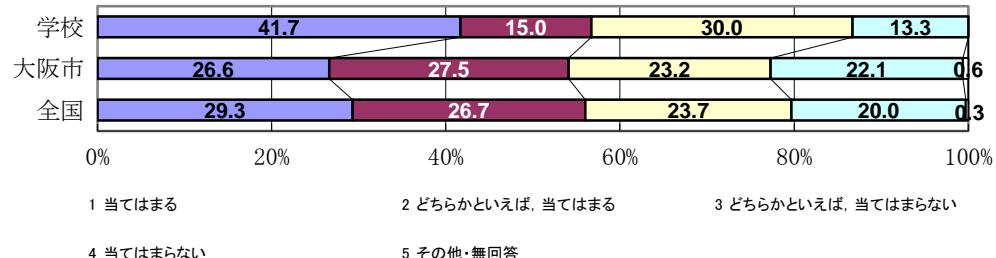
64

読書は好きですか



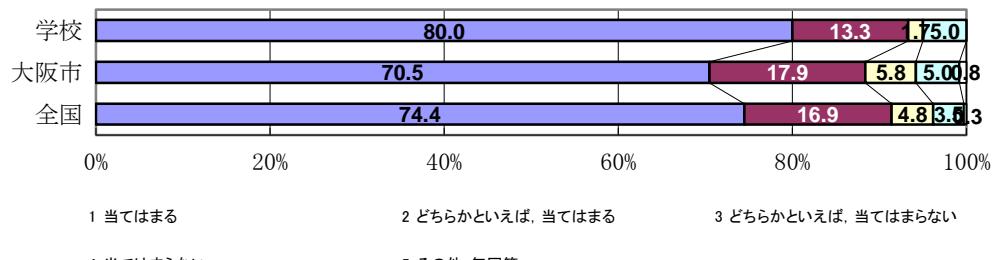
71

数学の勉強は好きですか



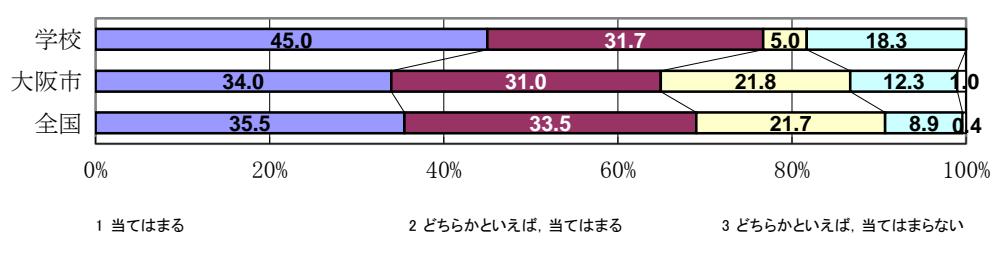
74

数学ができるようになりたいと思いますか



78

数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



学校質問紙より

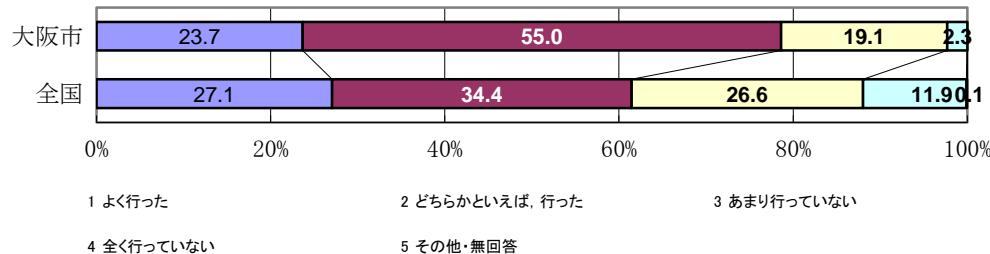
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

78

前年度までに、近隣等の小学校と、教育目標を共有する取組を行いましたか

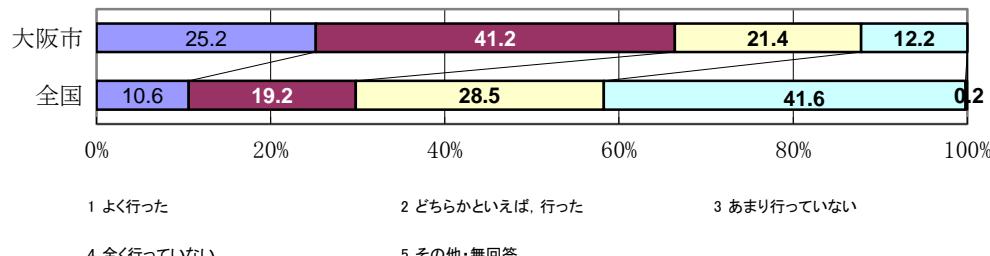
学校 「よく行った」を選択



84

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか

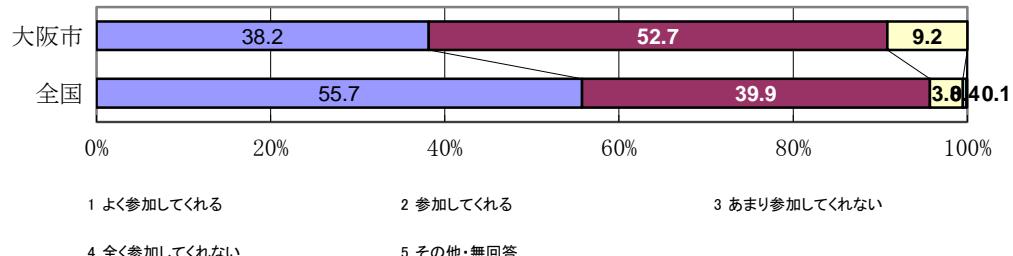
学校 「よく行った」を選択



87

PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか

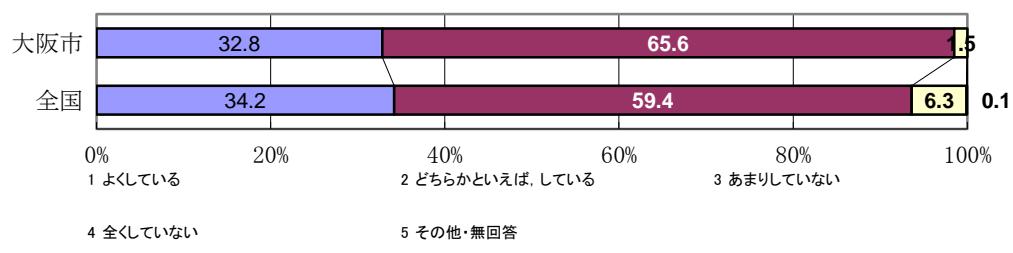
学校 「参加してくれる」を選択



109

学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



112

学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

学校 「よくしている」を選択

